

第3章 基本方針

1 森林・林業の再生

充実した森林資源と地理的優位性を活かして林業を再生し、『森林県ぐんま』から『林業県ぐんま』への飛躍を図ります。

- 林業経営を通じ、良好な森林の整備を推進します。
- 充実した木材資源を有する生産条件の良い森林を選定して施業団地^{※1}を設定し、一体的・集中的に路網等の生産基盤を整備した集約化施業^{※2}により利用間伐^{※3}を推進します。
- 集約化した施業団地においては、高密度路網と高性能林業機械^{※4}を組み合わせた効率的な作業システムの定着を図り、一日一人当たりの素材生産量10m³を目指します。
- 素材生産^{※5}の効率アップの成果を、事業体の経営基盤強化、森林所有者への利益還元、林業で働く人の待遇改善に結びつけます。
- 10年後の年間素材生産量40万m³を目指し、素材の安定供給体制の強化を図ります。
- A材からC材まで、生産される全ての素材を有効に加工・流通・利用するシステムを構築します。
- 価格・品質・安定供給のいずれにおいても、市場競争力ある製材品（県産木材製品）を供給する体制を確立します。
- 県産木材の地産地消を第一として、木材を積極的に利用する社会（循環型社会^{※6}）づくりを推進します。
- 地理的優位性を活かして、素材、製材品の広域流通の促進、販路拡大を図ります。
- 森林組合を中核に、新しい時代の森林・林業を担う人材等の確保・育成に取り組みます。
- きのこ、木質バイオマス等森林資源を活用した産業の強化に取り組みます。

2 森林環境の保全

森林の有する公益的機能を将来にわたって享受するため、社会全体で森林を守ります。

(1) 森林の有する公益的機能の高度発揮

- 公益的機能の高い森林については、公的整備、公有林^{※7}化、保安林指定などの公的関与により、森林の整備・保全に努めます。

- 森林所有者の負担を軽減するため、天然力を用いた森林の造成・保全手法を研究し、普及・定着を図ります。
- 地球温暖化防止機能の向上、**生物多様性^{※8}**を保全する森林整備手法を調査研究し、普及・定着を図ります。
- 全国的に問題となっている森林の獣害、病虫害対策に関係機関との連携を強化し、専門的な見地から被害対策に取り組みます。

(2) 森林を支える仕組みの構築

- 森林の恩恵を受けている全ての人々の力を結集し、森林を支える仕組みを構築します。
- 豊かな森林資源を活用した産業の創出や山村に暮らす人々の“知恵”や“技”を活かして、山村の振興を図ります。



COLUMN [コラム] 集約化施業

集約化施業とは、林業事業者などが隣接する複数の森林所有者から路網の作設や間伐等の施業を受託し、一括して行うことです。

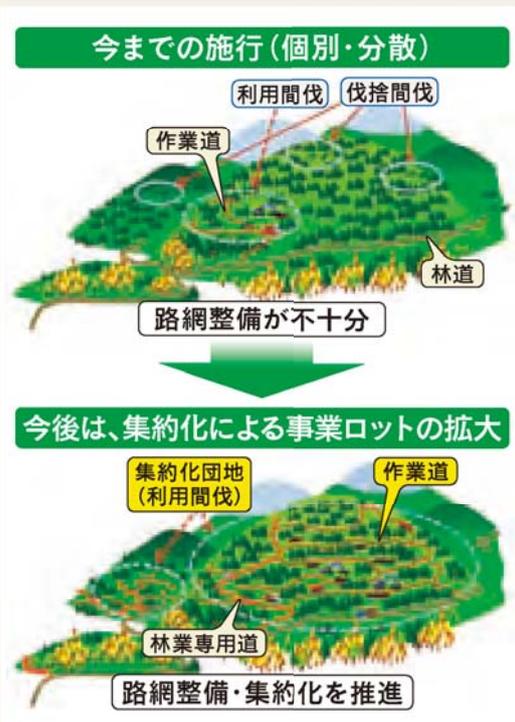
個々に行うよりも効率的に施業を行うことができ、コストダウンを図ることが可能です。

【集約化によるメリット】

- 一作業箇所の事業量が増加し、機械化による作業が可能となります。
- 必要な作業路網の整備を効率的、効果的に行うことができます。



木材の生産コストの低減と作業量の確保が図られ、間伐材等の安定販売などにつながります。





『用語の解説』

※1：【施業団地】

一つの施業を行うために、個人が持つ小規模な森林などを周囲の森林とまとめた(団地化した)もの。

※2：【集約化施業】

コラム「集約化施業」(P.12)を参照。

※3：【利用間伐】

伐採した木材を搬出して利用する間伐のこと。搬出間伐、収入間伐ともいう。

※4：【高性能林業機械】

従来のチェーンソーや集材機等に比べて、作業の効率化や労働強度の軽減等の面で優れた性能をもつ林業機械。主な高性能林業機械は、フェラーバンチャ、スキッド、プロセッサ、ハーベスタ、フォワード、タワーヤード、スイングヤード。

※5：【素材生産】

立木を伐採し、枝葉や梢端部分を取り除き、丸太にすること。

※6：【循環型社会】

有限である資源を効率的に利用するとともに、再生産を行って、持続可能な形で循環させながら利用していく社会のこと。

※7：【公有林】

公共団体の所有する森林。都道府県有林、市町村有林など。私有林に対する語。

※8：【生物多様性】

地球上の生物界が多様な「遺伝子・種・生態系」を維持していること。